

希学園 第405回 小5公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第405回公開テスト 小5国語 解説動画(2026年2月8日実施)	https://vimeo.com/1162802971/b4bdf90e06

2

1

じつくりと自分と向き合つて、自分を取
りもどすため。

(同意可)

(同意可)

9
娘は、わ

	8
A	
ウ	
B	
ア	
C	
工	

ア
余
テ
イ
才

2 X	づ	1 a	黄
Y	す		色
Z	づ	b	本
(記述題)			体

卷之三

	8 ウ
	9 ズ
	Y グ
	Z サ

工
イ
ウ
才
ア

山	役立
心	うか
完答	
美術	
二	勉強

0

正六圖

		配点
1	9・10	2 1・2 各2点×12=24点
1	5 2 3 各6点×2=12点	
その他		各4点×16=64点
		100点

〔1〕（ちいさな美術館の学芸員『忙しい人のための美術館の歩き方』より）

1 まず、この文章の出だしはほとんど美術館に行かない人とよく美術館に行く人との対比になつていてることをおさえよう。この問い合わせはほとんど美術館に行かない人の考え方が聞かれているので、文章の中でほとんど美術館に行かない人がどのように考えているのか、または美術館によく行く人の考え方とは対照的な考えがないかをさがしていく。すると――線⑨の前に「そうした役立つかどうかという価値観」が見つかるだろう。

2 ――線②の前に「そんな風に」とあるので、前の段落で筆者が何のために美術館に行つていたかを答えればよい。

3 ③は美術館好きが「だつて（美術が）好きだから」と言うことが、登山家が「そこに③があるから」と同じであるといふことから「山」が答えとなる。⑥は「忙」の字がりつしんべんと「亡」という字を組み合わせていることから⑥にはりつしんべんの元の形である「心」があてはまる。

4 問1で確かめた対比を利用してもよく美術館に行く人のことがどう書かれているかを指定の字数でさがしていく。

5 「忙しければ忙しいほど、ふと美術館に行きたくなる」のがなぜかは、次の段落にくわしく書かれていた。

6 イの「努力だけでなく、才能が不可欠だから」を利用して、その結果が何かをさぐればエの「活躍できる人は：ほんの一握りです」がつながる。ウの「でも」はエの「ほんの一握りです」と「憧れる人はたくさんいます」を逆接の関係でつないでいるので、エ→イのまとまりの後にウが来る。ウの「アーティストを目指す人、アーティストに憧れる人」をさして才で「そうした人」とまとめているのでウの次が才となる。アの「そこで」は才の「美術館でクリエイティブなものに触れる、囲まれる」「至福のひととき」をさしており、最後はアでまちがいないと見える。

7 「千差万別」と同じ意味の言葉をさがしていくこともできるが、「美術館に行く理由」が「千差万別」であることから「美術館に行く理由」がいろいろだと書いてあるところをさがしていくことも、話題のまとまりで答えをさがすことができるので効率的である。

8 「距離を置いている」とは近づこうとしていない、つまり遠ざけておきたいということである。

9 「おとずれる」や「ほぐす」のような言葉が身についているかどうかは、ふだん文章を読んでいる中でどれだけ言葉に注意を向けられているかで変わつてくる。意味があややかな言葉を残さないように、気になる言葉は辞書で積極的に調べていこう。

10 a 「幸」は「災」など同じ「い」が送りがなの漢字とまちがえないようにしよう。b 「活路」は「路」の六画目と七画目を組みちがえないように気をつけよう。c 「注目」はつくりの「主」をきちんと五画で書こう。

〔2〕（津村記久子『台所の停戦』より） ※ 問題作成の都合上一部表現をあらためた箇所があります。

1 a 「黄色」は「黄」の五画目から九画目を「田」のような形にしてはいけない。b 「本体」はうつかり「木」や「休」としないように気をつけよう。c 「旅行」は旅のつくりの画数をまちがえたり、「遊」のしんにようの中のようない形にしたりしないように注意しよう。

2 「ず」か「づ」かの書き分けは、1：原則は「ず」、2：もともと「つ」の言葉が他の言葉と組み合わされた場合は「づ」（「おり」）+「つめ」で「おりづめ」、3：「つ」が続く場合は「づ」（「づく」）の基本をおさえて、例外を覚えていこう。

3 指定の形に注意しよう。ほうれん草とベーコンの炒め物の材料を買ってまで作つて、台所を使いたいのはほうれん草とベーコンの炒め物を作りたいという気持ちが強いからだと考えられる。後は「：ので」のところにほうれん草とベーコンの炒め物を作る理由を入れていこう。習つてきたことを早く試したいのである。

4 このとき私が考へていることは、――線②から三行後で「娘はきつと…」という形で書かれていた。ここから私のねらいにあたる一文をさがしていこう。

5 私は昼寝をしていたところを娘に起こされたのであつた。また――線③の後に「次に私を起こしたのも」とあつたことから、「……」の後でまた眠つていたことがわかる。

6 文章の前半では、料理が思うようにいかない娘が四苦八苦する様子が書かれていた。ガス台に火をつけるところに「余裕がなくなつてきたのか、うなづきもせず」と書かれており、そこでも娘からの反応がなくなつている。

7 声が小さくなつているのは弱気になつていてことの表れである。ウの「祖母」は旅行に出ていて家にいないはずである。

8 Cは母親に任せればよくなつて安心したところなのでエがはいる。Bは次の文で「私は、見ていられなくなつて」とあることから娘の様子がおかしくなつていると考へられるのでアがはいる。ここまでの娘のぎこちない様子とこれが「初めての、お菓子作りじやない料理」であることから、Aはイではなくウがあてはまると考えられる。

9 料理が失敗に終わりがつかりしているのである。これと対照的なのはおいしい料理を作ろうとはりきつていてる料理前後の様子である。

10 まず私の母親である祖母の様子が書かれているのは文章の終わり二段落なのでここに注目する。孫に当たる私の娘の、「初めての、お菓子作りじやない料理」に対して「何の感概もなくうなづ」いていることから、祖母は家族の手料理にほとんど興味がないことがわかる。おそらく私の初めての料理の時も同じように無関心であつたと考えられる。